

フレーズ&センテンス ①

宮沢賢治と言えば『注文の多い料理店』や『銀河鉄道之夜』など、童話作家のイメージがありますが、「雨ニモマケズ」などのような詩も多く遺しています。特に私が好きなのは「永訣の朝」です。初めて目にしたのは、たしか国語の教科書でした。「あめゆじゅとてちてけんじゃ」というフレーズが耳に残り、強く印象に残りました。それから、ふとした瞬間にたびたび思い返しては本を開いて、この詩を眺めてきました。

私は温暖な地域の出身なので、この詩にあるような雪とみぞれの景色は決して身近なものではありません。けれど、痛いほどに妹を思う気持ちや、大切な人を亡くしてしまうという予感、読むたびに胸が苦しくなります。

この本には、「永訣の朝」をはじめとした数々の詩が収められています。偶然の出会いが、一生の付き合いになることもあります。ぜひ、美しい言葉たちとの出会いを楽しんでください。(丸山)

ニッポンの ③

文化探訪

2020年に向けて、日本の文化に注目が集まっています。そこで、今月から日本の伝統文化に関する本を毎月紹介していきたいと思っています。さらに今回は「TRY BOOK」との掛け合わせということで、伝統文化の一つである「金継ぎ」にトライしてみました！

「金継ぎ」とは、欠けたり割れたりした陶器などを、漆を使って貼り合わせる、昔ながらの修理の方法です。大切な茶碗等を長く使えるだけでなく、継ぎ目そのものが美しさを演出します。ちょうどお気に入りマグカップが割れてしまったので、いざトライです。

今回は、釣リ具などの補修に使われる新うるしを使用した、手軽な方法を採用。本来は食器には不向きな方法なのですが、今回割れたのが取っ手の部分だったので、早く直せる方法にしました。最初に接着する際、少しずれてしまったのですが、意外と簡単に直せました！次は、生漆を使った本格的な金継ぎに挑戦してみたいと思います。(丸山)



やよい TOPIX 本と出会う。

「わたくしのすべてのさいわいをかけてねがう」

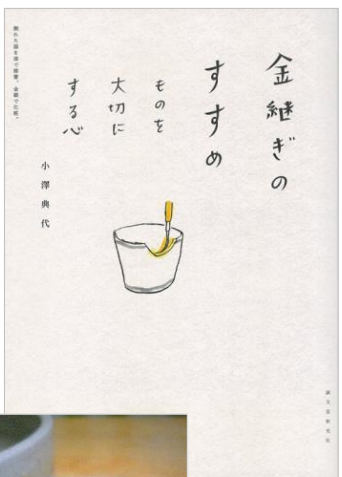


① 『永訣の朝』 宮沢賢治詩集
宮沢賢治／著 岩崎書店



② 『着物花柄図鑑』
明治大正昭和に咲いた
永田 欏子／著 誠文堂新光社

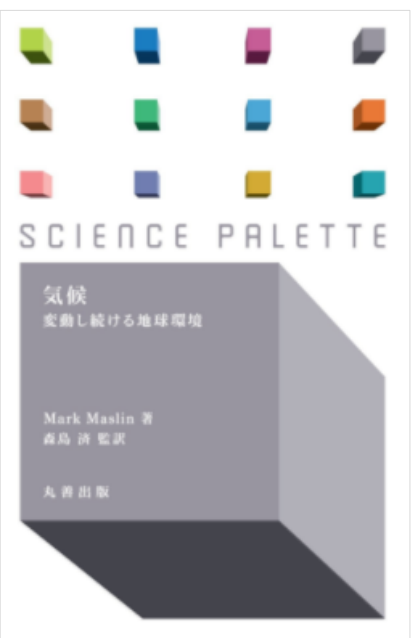
こんな本もありますよ！
『メンズファッションの解剖図鑑』
MB／著 エクスナレッジ
『みずたまちゃん』
林 木林／作 あきくさ あい／絵 すずき出版



③ 『金継ぎのすすめ』
小澤 典代／編 誠文堂新光社



④ 『気候変動し続ける地球環境』
Mark Maslin／著
丸善出版



読書の窓 ②

2月9日は、福の日・肉の日……など語呂合わせにちなんだ記念日がいっつか存在しますが、今回はその中から「服の日」に関する本を紹介したいと思います。ちなみに、この服の日が制定されたのは平成3年。案外最近なんですね。

服は着るだけではなく見ても楽しめませんが、日本文化の魅力を宿す着物の美しさにはつい目を引かれてしまいます。『着物花柄図鑑』明治大正昭和に咲いた』では、多種多様な柄の中から花柄に焦点をあてて、着物の写真と一緒に紹介しています。ピエラ、エレガンス、ミステリアスといった15のテーマに合わせて集められた色鮮やかな着物たちは、全て明治から昭和中期に作られたものです。昨今のファッションは、冬のトレンドは〇〇、その次のトレンドは△△と目まぐるしく流行が変わっていく、追いかけるのも一苦労です。たまには時を経て変わらぬ美しさに目を向けて、取り入れてみるのはいかがでしょうか。(生盛)

再生館 セレクト ④

「将来の気候をどう予測する？」
2017年、米国のトランプ大統領は地球温暖化に背を向け、温暖化防止の国際的な合意のパリ協定を離脱しました。

長期的な視野が必要なこの問題に対して、米国はあまりにも目光の利益のみで対処したのではないだろうか？という世界中の人々の疑問をこの本は科学的に説明してくれます。また、毎日の天気を決める「気象」と長期的な「気候」の違いについて、さらに、50億年先の地球の未来図も予見しています。

英国の科学者が欧米の視点で書いていることもあり、少し難解な部分もありますが、「気候」について、しくみと将来への課題を教えてください(再生館職員)

この本はあだち再生館の図書コーナーに置いてありますので、ぜひどうぞ。